

派遣先所属 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
氏名 栗原 正夫（くりばら まさお）
派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故によって放射性ヨウ素が放出されました。この放射性ヨウ素の内部被ばくによる健康被害として、小児の甲状腺がんが発生する可能性がチェルノブイリ原発事故で明らかになっています。

そのため、福島県では震災当時 18 歳以下の全県民約 36 万人を対象に平成 23 年度から 25 年度までに全員の甲状腺検査を実施することになっています（**先行検査**）。しかし、この検査は一回だけで終わるのではなく、その後も 20 歳までは 2 年おき、それ以降は 5 年おきに、長期にわたり検査を継続します（**本格検査**）。

平成 23 年度 ～ 平成 25 年度	先行 検査	一次検査 は福島県内では公共施設や小中学校等に出張し検査を実施。県外は全都道府県約 80 の医療施設が協力し実施。 必要に応じて福島県立医科大学等で 二次検査 を実施。
平成 26 年度 ～長期継続	本格 検査	20 歳までは 2 年おき、それ以降は 5 年おきに検査を実施。

私は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターに所属し、主に福島県外に避難または居住している約 2 万人の 18 歳以下の子供の甲状腺検査業務を担当しています。この業務には福島県や福島県立医科大学の職員、新潟県、群馬県、長野県から派遣された職員が一緒になって進めています。

北海道から沖縄県まで全国に避難等している福島県の子供たちの甲状腺検査は県外の医療施設に協力してもらっています。検査は完全予約制のため、当時居住していた市町村の協力を得て対象者の避難等先住所を確認し、検査同意書を返送してもらい、県外の医療施設と人数・日時等を調整してようやく検査を実施できるという大変な作業です。私は、県外の医療施設から送られてくる検査データの整理作業をしています。今後、就職や進学で福島県外に引っ越す子供が増えると予想され、対象者がさらに増加することも考えられます。

現状では、**先行検査**の「**一次検査**」でより詳しい検査が必要と判断されると「**二次検査**」を受診していただき、診断を確定する事になりますが、「**二次検査**」は福島県内でしか行っていないため、遠い避難先からわざわざ福島まで来てもらわなければならない、大変な負担を県民の皆様にかけているのが実情です。

私の職場では毎日のように朝早くから夜遅くまで職員の皆さんが頑張っています。

福島県は広いので、全県の公共施設・学校への出張検査に午前7時位に出発し、午後6時から7時位に帰って来て、それから片付けや、翌日の出張検査の準備などを行います。

世界的に見ても前例のない「18歳以下36万人の県民全員の甲状腺検査」を長期間行うという大変な仕事ですが、臨床検査技師としてこのような仕事で東日本大震災復興支援に従事する機会を与えられたことに感謝しています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

私の住んでいる福島市内の東日本大震災に伴う主な被害は、目に見えない放射能汚染です。私の住んでいる所も除染がおこなわれ、家のすぐ隣にある幼稚園のモニタリングポストの値も0.16 μ Sv/hと以前より低くなっています。(2013.10月現在)

私の大学生の子供がボランティア活動で岩手県大船渡市三陸町越喜来地区に行った際お世話になった方に、地元を案内してもらう機会がありました。津波の被害を受けた沿岸部の映像は新聞・テレビなどで何度も見ていましたが、やはり現場に行くと地元の人から当時の様子、被害の状況などの説明を聞く事が大切だと感じました。写真①は明治、昭和、そして今回の3回もの大津波にも耐えて生き残った「ど根性ポプラ」です。陸前高田の奇跡の一本松がマスコミに大々的に取り上げられ有名ですが、枯れてしまい今はレプリカです。写真②は地元の人たちが作った「大津波資料館」です。



写真① この「ど根性ポプラ」は大津波で全てが流された所で1本、ひっそりと頑張っています。根元の周りにコンクリートのテトラブロックが置かれて根がはれず、かわいそうです。



写真② 名前は「潮目」です。震災前の三陸町越喜来地区の様子、震災後の現状を知ってほしいと思い、地元の大工さんが廃材で作ったそうです。ベンチで話しをしたり、子供達が遊べる場所にもなっています。中には震災前後の写真や震災で止った時計などを展示しています。

汚染水漏れなどの暗いニュースが多い福島ですが、春には花見山公園（写真③）で素晴らしい景色を見ることができます。6月には東北6県のお祭りが一度に見られる「東北六魂祭」がありました。夏には「わらじ祭り」、秋には23町内会の山車が集結する「連山車」（写真④）などがあり、沢山の人が集まり熱気に満ちています。特にお祭りに若い人達がたくさん参加して盛り上がっていたのが印象的でした。福島市内から1時間以内で行ける所に、花の名所、温泉、紅葉の名所がたくさんあり、桃、りんご、サクランボなどの果物も種類が豊富で、長い期間食べることが出来ます。住んでいる人も親切な方が多く、福島県はとても良い所なので多くの人に来てほしいです。



写真③ 「福島に桃源郷あり」と言われた里山、私有地を無料開放しています。梅、花桃、桜、レンギョウ、ボケ、モクレンなどが咲きます。



写真④

提灯に灯を
ともした 20
台以上の町
内会の山車
が駅前通り
に集結し、稲
荷神社へと
向かいます。